



若手職員 インタビュー

一般社団法人全国地方銀行協会
Regional Banks Association of Japan

目次

1. 業務部	
法務コンプライアンス・事務担当	p.4
市場・個人業務担当	p.5
融資・法人業務担当	p.6
信用リスク管理高度化支援室	p.7
2. 企画調査部	
企画担当	p.9
統計・経理担当	p.10

※ 所属・担当は、2021年2月現在。



はじめに

全国地方銀行協会は、「地域経済の持続的発展に貢献」することを目指し、全国にある地方銀行62行（会員銀行）の様々な取組みを支援しています。

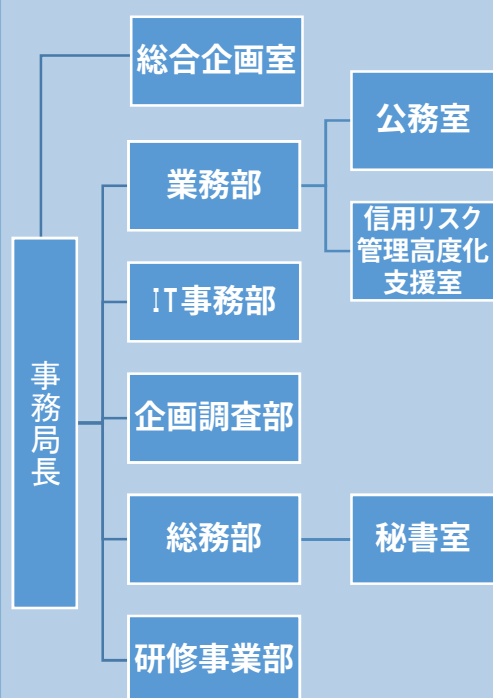
当協会の事業は、以下のとおりです。

- 1 金融経済および銀行経営についての調査研究
- 1 銀行業務の改善についての研究企画
- 1 関係官庁、関係機関その他に対する意見の開陳ならびに連絡
- 1 会員銀行の役職員に対する研修の実施ならびに会員銀行の行う教育についての調査研究
- 1 会員銀行相互の親交、連絡および提携など

とはいえ、私たちの仕事は、一般的にイメージしにくいと思います。そこで今回、新入職員が配属されることの多い2部署の若手職員に、インタビューを行いました。

ここでは、具体的な仕事内容から、入社して感じたこと、終業後の過ごし方まで、若手職員の実際の声を紹介します。ぜひ、入社後の姿をイメージしてみてください。

<組織図>

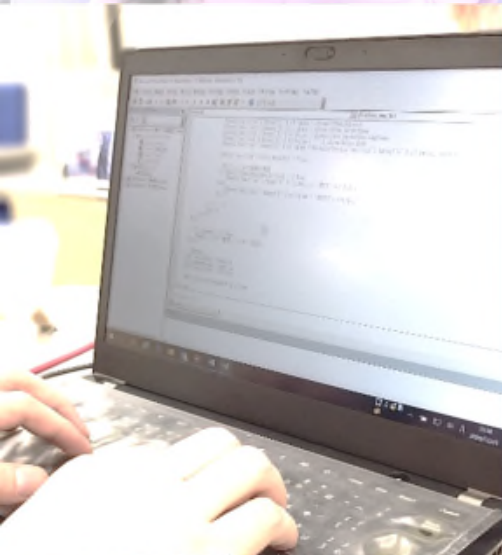


1. 業務部

業務部は、20名超が所属している。

所管業務は、市場・個人業務、融資・法人業務、公務・地方創生、信用リスク管理など多岐にわたり、4名程度の各チームに分かれて仕事に取り組んでいる。

このほか、会員銀行が参画するいくつかの共同事業も運営している。



スピードと質の両立。 さらにその先へ

花里は、法務コンプライアンス・事務部門を担当。

民法や個人情報保護法の改正に関する地銀界の意見集約や銀行として必要な対応の整理、不祥事発生防止への対応のほか、金融業界における書面・押印・対面手続きの見直しにも携わってきた。



あらゆる銀行業務に関わる法務部門

皆さんが預金口座を開設するとき、申込書に氏名や生年月日といった個人情報を記入しますよね。では、申込書を受け取った銀行は、記載された個人情報をどのように扱ったらよいのでしょうか？

個人情報保護法、民法（債権法・相続法）など、法律で求められる対応を銀行業務の中で行う場合、具体的にどのような対応が必要となるのか。逆に、何をしてはいけないのか。これを検討するのが、法務部門です。

一般的な法律の解説書は世に溢れていますが、銀行業務に特化したものはほとんどありません。

私たちは、法律や政省令の改正案に対し地方銀行の目線で意見を提出したり、改正後の法律対応における弁護士の見解を伺ってQ & Aや講演録を作成・会員銀行に還元したりしています。



あらゆる銀行業務に関わり、かつ実務の非常に細かい部分まで理解しなければいけないので、勉強することは山ほどありますが、銀行業務に特化した情報源として、会員銀行から感謝されることも多いです。

ひとつひとつ、課題を乗り越えて

仕事で意識しているのは、スピードと質の両立です。新しい案件が次々に飛び込んでくるので、すぐに対応できるよう、広くアンテナを張ることを心掛けています。具体的には、日経新聞や担当分野の情報誌を読んだり、時には法改正を先導している政治家のSNSをチェックしたりもします。

そうした中、今の私の課題は、自分の考えを持つこと。例えば、上司への相談の際、「どうしたらよいですか」ではなく、「今の状況は○△なので、△△したいと思います。よろしいですか」と、今ある事実から何をすべきか自分で考え、判断すること。課題クリアに向け、まずは自信が持てるくらい知識を身に付けたいです。

社会人になっても夢を叶える！ 図書館司書の資格を取得



大学時代に、図書館司書の資格を取得したかったのですが、他の授業とかぶってしまって、該当の授業が受けられなかったんです。それが心残りです。資格の取得方法は複数ありますが、私の選んだコースは、1週間程度、日中に大学で講習

を受ける必要がありました。

講習は、業務の繁忙期が重ならない時期ではあったものの、上司に相談する際、夏休み以外に5日間の有給休暇を認めてもらえるか、不安もありました。でも、地銀協には学ぶ意欲を応援してくれる風土があります。「一生学ぶことが仕事だよ」と上司は快く了承してくださり、去年の冬、無事、図書館司書の資格を取得することができました。

仕事は自ら取りに行くもの。 とにかくやってみる

若井は、市場部門をメインで担当。

世界的に利用されている金利指標「LIBOR」の代替指標に関する検討、有価証券運用の高度化・リスク管理等に携わる。

3年目からは、同じチームに新入職員が加わり、後輩指導も行っている。



難しい。でもそれが、楽しい

市場部門は、専門用語がとびかったり、英語の文章や難しい計算式を読み解いたり、正直、わからないことが多くて心が折れそうなときもあります。普段は、参考文献を読んだり、会員銀行に具体的な問題意識をヒアリングすることで、勉強しています。するとあるとき、今までに得た単語や情報が結びつく瞬間があるんです。それがとても楽しいし、自分の中でも「理解できた！」という納得感があります。

事務的な業務で言うと、Excelの関数やマクロを使ったアンケート集計等の効率化がありました。初めこそ難しかったですが、一つわかると楽しくて、もっと知りたくなる。関数で効率化できた作業に対し、上司がすごく褒めてくれるので、もっと工夫したくなる。

そうしたことの繰返しで、日々の業務を進めているように思います。

まずはやってみる！できなくても、やりたい意思を示す！



「仕事は自分で取りに行くものだよ」。入社1年目、自分が何をしようとした時期に、ある方から掛けてもらって、大事にしている言葉です。これを言われてから、仕事への意識が変わりました。

意識したのは、まずはやってみること。仮にできなくても、やってみたい意思を表すこと。何か仕事を見つけたら、「私がやってよいです

か？」と聞くようにしています。たとえ「半分終わったから大丈夫だよ」と言われても、「続きをやってよいですか？」と粘ります。特に、資料作りは、案件の理解度が高まるし、文章表現や必要な情報を過不足なく書き込むことに苦手意識があるので、できる限りやらせてもらうようにしています。

こうしていくうちに、少しずつできることが増えていきました。もちろん、やってみた結果、できなかったこともあります。次への可能性が広がるような気がしています。

どんな人からでも、学ぶことがある

後輩に教える立場になり、改めて自分の理解度の低さを痛感しました。会員銀行の方は知識があるので、私の説明が多少つたなくても補って受け止めてもらえましたが、新入職員は、易しい言葉でかみ砕いて説明しないと理解してくれません。後輩も、よい意味で遠慮せずに、私が気付かなかったことを指摘してくれるので、とても気付きがあります。

地銀協は、100人に満たない小さな会社ですが、

それでもいろいろな人がいて、それぞれ考えも違います。年次や経験に関係なく、社会人の心得、資料のまとめ方など、どんな人からでも学ぶことがあると思っています。



どの業界団体の誰よりも 詳しく知りたい

森田は、融資・法人業務部門を担当。

具体的には、会員銀行の融資審査を担当するメンバーが集まる毎月の会議「融資部会」や、政府系金融機関との意見交換会の運営、政府の新制度に関する説明会の実施や照会対応等がある。



嬉しい瞬間は、会員銀行から1番に指名されて質問を受けるとき



会員銀行からの電話照会は毎日ありますが、特に政府の新制度開始時には、照会が殺到します。最近の新制度だと、新型コ

無担保融資」制度がありました。

会員銀行は、私からの回答をもってお客様へ対応するので、その照会先として1番に指名されて連絡を受けるのは、頼りにされていると実感できて嬉しい瞬間の一つです。正確な情報を伝えなければならないという責任を伴いますが、その分やりがいも感じます。

ロナウイルス感染症への対応として「無利子・

改めて感じた、コミュニケーションの大切さ

業務部が所管する共同事業のうち、私は「DE NTRANS」を担当しています。「DENTRANS」は、企業が決済手段として電子記録債権「でんさい」を利用するためのシステムです。地銀協は、「DENTRANS」を利用する会員銀行と、提供するシステムベンダー間の各種契約手続き等を仲介しています。

以前、ベンダーと新規契約を締結するにあた

り大筋合意で手続きを進めていたところ、途中で認識違いがあることが判明。最初の契約内容の確認からやり直すことになってしまいました。

仕事はいろいろな人が関わって進めるものです。頭ではわかっていたものの、順を追って説明すること・理解すること、都度認識共有・確認することの大切さを改めて感じる機会となりました。

想像よりも、ずっと深い知識が求められる

入社前は、地銀協の仕事を定型的な業務、正直に言うと単純作業のような仕事が多いのかと思っていました。しかし、入社してすぐに全然違うと気づきました。資料やアンケート、会議録の作成や、省庁から依頼される制度の周知など、どんな業務であっても、案件のスキームや具体的な内容、その背景や根拠、銀行実務への影響を理解しないと、上司や会員銀行から認めてもらえません。

案件内容は、資料を読み込めばわかりますが、私は実際の銀行業務を経験したことがないので、銀行実務への影響は想像するのに限界があります。そんなときに頼るのが部会メンバー。若輩者の私にも、優しく丁寧に教えてくださり、

日々、新しい知識や情報が増えていくことに喜びを感じています。

金融業界団体には、地銀協をはじめ、全銀協、第二地銀協、全信協など複数の団体が存在します。時に各団体のメンバーで意見交換したり、



刺激を受けることもあります。自分の担当案件については、どの業界団体の誰よりも詳しく知りたい、それが私の今の目標です。

常に前例を、己を疑う。 真に役立つ存在を目指して

信用リスク管理高度化支援室は、地銀の信用リスク管理業務の高度化に資するための調査・研究や情報提供を実施。その一環として、「CRITS」(Credit Risk Information Total Service: 信用リスク情報統合サービス)というサービスを運営している。

北野は、このCRITSの運営・監視業務、データ分析をメインで担当。



金融工学を駆使する専門部隊

信用リスクとは、債務不履行が生じるリスクのことを言います。銀行は、融資が特定の分野に集中しないようモニタリングしたり、統計的手法による信用リスク量の評価・分析等を行い、適切なリスクテイクを図っています。これが信用リスク管理です。

CRITSは、①信用情報データベース、②財務スコアリングモデル、③信用ポートフォリオ評価モデル、の3つの機能を提供しています。このうち、①のデータベースは、すべての地銀が過去15年以上にわたり統一基準でデータを蓄積したもの。世界的にも稀なデータベース、それに基づく評価モデルの提供により、私たちは地銀の信用リスク管理の高度化を支援しています。CRITSの運営業務としては、登録情報やスコアリングモデルの精度検証、専用端末の操作方法の

照会対応等があります。



また、CRITSデータを用いた分析を行っており、最近では、新型コロナウイルス感染症の影響をテーマに取り上げました。時に、信用リスク関

連の海外文献を翻訳し、会員銀行に還元することもあります。

私たちの仕事は、地銀協の中で最も専門性の高い分野なので、一見とつきにくいかもしれませんが、でも、勉強しがいがあり、会員銀行からの反応が直に感じられる今の仕事が、私には合っていると感じています。

批判的に考える。私たちの存在意義や仕事の価値とは？

「任された仕事の意義や、地銀協の存在意義を、検証的に考えられる人」と一緒に働きたいです。

異業種の参入やコロナ禍による経済活動へのショック等により、地銀を取り巻く環境は厳しさを増しています。会員銀行が変化を求



められている今、私たち地銀協の働きが、これまでと同じでよいということはありません。

絶対にやってはいけないのは、無批判的に前例踏襲で仕事をする、何も考えずに上司の指示をそのまま行うこと。職員一人一人が、目の前の仕事や、過去のやり方に対し、ある意味で疑いの目をもって仕事に取り組まなければならないと思います。より効率的な方法、より有益な仕事の発見に繋がるからです。

「みんなで休もう！キャンペーン」、実施中

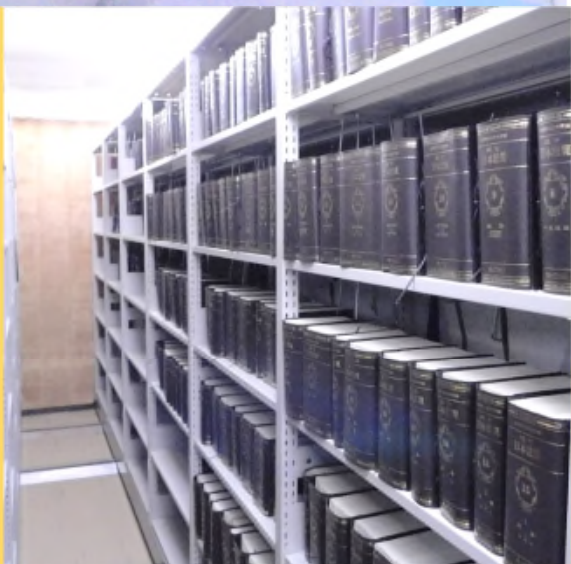
「月1回は有給休暇をとろう！」という上司の提案で、当室では、「みんなで休もう！キャンペーン」を自主的に開始しました。5か月先までのカレンダーを掲示して、各自、休みたい

日にシールを貼っています。こうやって上司から積極的に言ってもらえるので、心理的にも有給休暇は取得しやすいですね。

2. 企画調査部

企画調査部の所管業務は、企画と調査の大きく2部門に分かれるが、「全員全部担当」をモットーに、各業務を様々なメンバー構成で担当。

具体的には、金融関連法令等の改正への対応、広報・SDGs、郵政民営化、会計・経理、統計のほか、地銀協ホームページの運営・管理、マスコミ対応など対外的な業務も所管している。



「頼りにしているね！」 その言葉でもっと頑張れる

阿曾は、規制改革要望の取りまとめ、SDGsへの対応のほか、銀行法・施行令・施行規則を一覧化した「銀行関連法規の整理」の整備等を担当。入社1年目から、62行の頭取方が出席する「例会」の資料作成にも携わってきた。



入社当初、法令条文を読み解くのが難しかった

規制改革要望は、会員銀行から寄せられたニーズ・問題意識をもとに、具体的にどのような法令・制度がネックとなっているのかを調査・ヒアリングのうえ、取りまとめていきます。

入社当初は、不慣れな法令条文の読解に苦労しましたが、日々の勉強の積重ねや先輩の指導

のおかげもあり段々と早く調べられるようになりました。

今では、新規要望の起案や、例会用の資料作成も任されるようになり、着実に成長できていると感じています。

「新しいことに挑戦したい」、若手の意見も言いやすい職場



先輩方は優しくフレンドリーで、相談しやすいです。自分の意見も言いやすい環境なので、私は入社2年目に、「もっと新しいことにも挑戦したい」と上司に志願

したところ、SDGsを担当させてもらえることになりました。担当として、SDGsの認知度向上を目指し、行員や取引先企業向けの啓発用チラシの作成、連載形式の情報発信に携わっています。

上司や先輩から、「頼りにしているね」「助かるよ」と声をかけてもらえると、「もっと頑張ろう!」とやる気がアップします。

いつか憧れの先輩のように

目標としている憧れの先輩がいます。幅広い知識を持っているのはもちろんのこと、特に、質問の趣旨を的確にとらえて簡潔に説明できることを尊敬しています。実際、会員銀行や上司からの信頼も厚いです。

私も入社3年目になり、照会対応など一人でできることが増えましたが、うまく説明できず

もどかしい思いをすることもあります。役に立っている実感が得られるくらい、知識や経験を身に付けて業務の幅を広げていきたいです。



週1回の習い事や食べ歩きで、プライベートも充実

会議の準備があるときなど、特定の時期以外に残業はほとんどありません。最近はコロナ禍で難しいですが、以前は、平日の終業後に週1回のペースで、ジムに通ったり、大好きなカ

レーを食べて帰ったりしていました。地銀協の中でも、比較的充実した終業後を過ごしている方かもしれません。

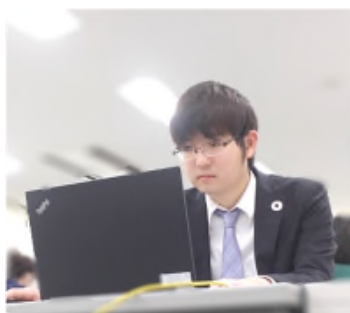
統計資料に メッセージ性を持たせる

橋本は、会員銀行62行の状況をまとめた各種統計資料の作成、会計制度の改正や経理実務上の課題への対応を担当。統計資料のうち、決算の概要や主要勘定（月次）は、地銀協ホームページで公表されている。



統計業務、何をするの？

統計業務の手順は、
①会員銀行等から各種資料の受取り・公表資料から数字を収集、②会計システム等により数字を集計、③集計した数字の検証、④還元・公表資料の形式に加工・編



集、といった流れが基本になります。

この中で苦戦するのが、③集計した数字の検証です。単位間違いや記入漏れのような単純ミスがないかの検証から、各銀行の特徴や現在の情勢に照らして違和感がないか、といった一定の経験や知識が必要な検証もあり、ひとつひとつ銀行に電話で確認・修正していきます。

数字の正確性は絶対。 追求したいメッセージ性

「統計資料にメッセージ性をもたせてほしい」、会員銀行から言われた言葉です。その趣旨は、「数字という事実だけを示すのではなく、地銀が頑張っているところを対外的にアピールしてほしい」というもの。担当者としては目から鱗の発想でした。

それまでは、業務の性質上、どうしても数字の正確性や文言の客観性だけに目が行きがちになっていました。でも、数字の正確性は当たり前。客観性を求めるあまり、第三者目線に

なってはいけない。業務で求められるレベルの高さ、自分の未熟さを改めて感じることができました。

メッセージ性を出すためには、数字を表面的にみるだけでなく、その背景となる環境変化や経済情勢に目を向ける必要があります。直接の担当業務以外にもアンテナを張りつつ、メッセージ性と客観性のバランスを自分なりに考えていきたいです。

会員銀行と歩を同じくして

入社して感じたのは、会員銀行との距離の近さです。業界団体の中には、自主規制機関として会員に対し監査・指導する団体もありますが、そうすると、会員とは一定の距離を保つことになると思います。

一方、地銀協はあくまで会員銀行に寄り添い、同じ目線でいる立場。会員銀行が何を求めているのか、自分たちは何ができるか、どうしたら役立つかを常に考え、会員銀行と日常的に綿密なやりとりを行っています。

正直、私は電話が苦手で言葉に詰まってしまうことも多々あります。でも、「何気ない発言の中に思わぬニーズがある」。先輩からのアドバイスを胸に、会員銀行が求めているものを察知できるような配慮を心掛け、業務に取り組んでいます。



